

# 東日本大震災復興支援 生活支援相談員ニュースレター

～VOL.38～

【発行】

平成31年4月発行

社会福祉法人 岩手県社会福祉協議会 地域福祉企画部 コミュニティ振興グループ  
岩手県盛岡市三本柳 8-1-3 ふれあいランド岩手内 TEL:019-601-7042 FAX:019-637-7592

## 平成30年度 東日本大震災被災者実態調査研究 報告

本会では、調査研究として平成28年度から、被災者の個別の状況や住民同士の支え合いの実態を明らかにし、今後の被災者支援方策を検討しています。

平成30年度からは、2か年にわたり①被災者実態調査委員会、②支え合いマップ地域支援委員会、③被災者調査・地域支援合同委員会の3つの調査研究委員会を設置しました。

本調査研究は、平成30年1月に定めた世帯アセスメント基準の結果を集計し、生活支援相談員が認識した被災者の生活課題や傾向を数値として捉えるとともに、住民支え合いマップづくりを通じた地域アセスメントに取り組み、その取組の中から有効な具体的地域支援の手法を見いだすことを目的としたものです。

この度、被災者実態調査委員会及び支え合いマップ地域支援委員会において取り組んだ調査研究の報告書を取りまとめました。



### ➤ 世帯アセスメントの主な結果

- ・ 全支援対象世帯へアセスメントを実施。状況変化の都度、更新し、支援対象世帯が明確になった。
- ・ 世帯アセスメント基準の項目と項目の解説である「世帯アセスメント基準の視点」を定めたことで、着目すべき状態像が明らかになった。
- ・ 生活支援相談員の支援目標が設定され、生活支援相談員活動の標準化と質の向上につながった。

### ➤ 「世帯アセスメント基準」及び「世帯アセスメント基準の視点」の改訂

- ・ 1年間のアセスメントの実践経験とアセスメントの集計結果に基づき、基準の曖昧さを修正し、考え方を整理する改訂を加えた。改訂版は、これまでの生活支援相談員の継続性と、他の災害においても活用できる「住まいの移行期」の特徴をとらえた汎用性に留意した。

### ➤ 支え合いマップ地域支援委員会

- ・ 18市町村36地区の取組経過の実践事例を蓄積することができ、そこから見える住員の姿や地域課題を知ることができた。その中で、「災害公営住宅自治会の活性化の契機」や、「住民のニーズの把握」などの成果が見えてきているが、具体的な効果測定や分析までには至っていないため、引き続き、マップを活用した地域アセスメントに取り組み、課題と成果を明確にしていくこととする。

報告書は、本会のホームページ上のPDF版からダウンロードできます。

☆ 被災者調査研究報告書 ⇒ <http://www.iwate-shakyo.or.jp/docs/20190470200019/>

☆ 支え合いマップ地域支援委員会中間報告書

⇒ <http://www.iwate-shakyo.or.jp/docs/2019040200033/>

～陸前高田市社協の高知県視察から学ぶ～  
岩手でもできる 居場所づくり、生活支援の拠点づくりの取組



平成31年3月5日(火)13時30分から、陸前高田市社会福祉協議会竹駒事務所で、高知県視察の伝達研修を開催し、宮古市、山田町、大槌町、釜石市、大船渡市の各市町村社協が参加しました。

高齢化率全国第2位の高知県では、居場所づくり、訪問、生活支援を基本機能とする拠点「あったかふれあいセンター」を整備する事業を行っています。

岩手県でも平成31年度から2年間で、高知県のあったかふれあいセンターのような拠点づくりを生活支援相談員事業の一環として、沿岸市町村社協で取り組む予定としています。2月末に、陸前高田市社協が高知県で視察を行ったことから、視察で得られた情報を共有し、それを参考に、岩手ではどのような取組ができるかを意見交換しました。

高知県はもともと小地域活動が活発で、住民の主体性が発揮され、社協や支援者は住民から出されたアイデアの実現を支援する形で運営されていることが分かりました。このような地域の力は10年、20年という長期間の活動の中で培われます。岩手でも生活支援相談員活動の財産を活かし、各地域で知恵を出し合い工夫を凝らして取り組んでいきたいという意見が多くありました。

**高知県あったかふれあいセンター事業**

地域福祉の拠点において、地域支援中心のスタッフ(1人)、見守り等の個別支援や生活支援を行うスタッフ(1人～2人)を配置し、地域の課題や生活ニーズへの対応、地域のニーズに応じた新たな支え合いの仕組みづくりを進め、支援している。

提供するサービスは、集い、訪問・相談・つなぎ、生活支援の3つを必須事業とし、このほか、地域の実情に応じて移送、配食サービス等を実施している。

「皆でできる楽しいこと」を話し合う ～大槌町コミュニティ協議会～

平成31年3月17日(日)13時30分から、大槌町中央公民館の大会議室で、第2回大槌町コミュニティ協議会が開催され、自治会・町内会の役員や支援団体等80名以上が参加しました。

町方・小枕、安渡・赤浜、吉里吉里・波板、大槌川流域、小槌川流域の5地区と災害公営住宅に配置されている地域コーディネーター及びアドバイザーから活動の報告がありました。

大槌町社会福祉協議会からは「支え合いマップ」の取組について、「マップの作成は地域を良くするための情報共有の場。平成30年度は8地区で作成した」等の報告がありました。

地区に分かれての話し合いでは、「皆でできる楽しいこと」をテーマに意見を交わし、「ウォークラリーの開催」や「三陸鉄道開通の3月23日に皆で清掃活動しよう」等の意見が出ました。



自治会・町内会役員の他、女子高校生の参加もあり、和やかな雰囲気の話合いとなりました。